



▲色絵窓龍文盛蓋瓶 (四日市市立博物館所蔵)

萬古焼の始まり —古萬古—

萬古焼の発祥は今から約280年前にさかのぼります。創始者の名は沼波弄山。弄山は桑名で廻船問屋を営む商人の家に生まれ、幼い頃から茶道に親しむ教養人でした。茶の湯好きが高じて、元文年間(1736~41年)に小向村(現在の朝日町小向)に窯を開いたのが、萬古焼の始まりと言われていいます。沼波家の屋号である萬古屋の「萬古」あるいは「萬古不易」の印を押したことから、萬古焼と呼ばれるようになりました。

弄山は当初、京焼の技法を基に茶陶(茶の湯に使う陶器)を作っていました。その後、更紗模様(インドなどの染め物の柄)やオランダ語をあしらったものなど、異国情緒あふれる作品を生み出し、人気を博しました。

将軍家からの注文も受けるようになり、宝暦年間(1751~64年)には江戸・向島小梅(現在の東京都墨田区)に窯を設けました。萬古焼は江戸でも好評を得ましたが、安永6年(1777年)に弄山が亡くなると、徐々に窯は廃れていきました。



▲青釉見込色絵手付盃 (四日市市立博物館所蔵)

四日市萬古焼

B a n k o W a r e

村を救う地場産業 —四日市萬古—

三重郡末永村(現在の四日市市末永町)の村役だった山中忠左衛門は、嘉永6年(1853年)、邸内に窯を築いて研究を始めました。有節萬古の人気に着目し、毎年のように水害に見舞われ困窮する村を救うため、地場産業として窯業を興そうと考えたのです。

長年の苦勞の末、忠左衛門は明治3年(1870年)に四日市萬古の焼成に成功。村人らに道具と陶土(陶磁器の原料となる粘土)を与えて指導しました。忠左衛門は惜しみなく技術



▲福助土瓶 (四日市市立博物館所蔵)

を公開し、量産体制を確立させました。やがて四日市港や鉄道が整備され交通網が発展すると、萬古焼は国内外へ市場を広げていきます。関連業者も増え、地場産業としての基盤が築かれました。

発想が自由すぎる! ユーモアあふれる萬古焼たち



▲兎置物 (四日市市立博物館所蔵)

▲狸形花鳥文後手急須 (四日市市立博物館所蔵)

▲色絵面土瓶 (四日市市立博物館所蔵)

“いつの世までも残るように”

萬古焼の祖・沼波弄山が願いを込めて作品に押した、「萬古」「萬古不易」の印。それが萬古焼の名前の由来とされています。「萬古の印があることが一番の特徴」と言われるほど形は多彩。陶土などの資源が乏しい環境で創意工夫を凝らし、時代に合わせて新たなものづくりに挑戦してきた歩みをたどります。



▲眠り猫 (四日市市立博物館所蔵)

再興した兄弟 —有節萬古—

天保3年(1832年)、桑名の古物商だった森有節と弟の千秋が萬古焼の再興を目指し、萬古焼発祥の地である小向に窯を開きます。

森兄弟は当初、沼波弄山の作風を再現したやきものを多く作っていました。しかし、工芸的な才能があり研究熱心だった2人は、鮮やかなピンクの釉薬「腥臙脂釉」や、木型を使って急須を成形する「型萬古」など、時代を先取りするような独自の新技法を生み出していきます。

それらの作品は国内外で高い評価を得ました。



▲腥臙脂釉鳳凰文蓋物 (四日市市立博物館所蔵)

■型萬古

木型に布または和紙を巻き、その上に薄く延ばした土を張り付けて形を作り、木型をばらして抜き取る手法。



◀型萬古の木型(四日市市立博物館所蔵)



▲木型造菊花文急須 (四日市市立博物館所蔵)

有節が考案した型萬古は、急須の量産を可能にした画期的なアイデアでした。萬古焼の技法は三重県以外の他の地方にも伝わり、東北地方や関東地方にも「萬古」の名がついたやきもの(秋田萬古、足利萬古など)が誕生しました。

活況を取り戻す —大正焼—

明治末期に日本経済が不況に陥ると、萬古焼も低迷期を迎えました。その状況を打破したのが、明治44年(1911年)に半磁器(陶器と磁器の性質を併せ持った器)の「大正焼」を開発した水谷寅次郎です。



▲染付山水文鉢 (四日市市立博物館所蔵)

大正焼は、黄味を帯びた温かみのある素地が好評だったほか、磁器に比べ低温で焼けるなど生産コストが抑えられる利点もありました。寅次郎はその技術を公開し、業界は活況を取り戻します。

機械化や硬質陶器・軽量陶器などの開発も進められ、四日市は窯業地として大きく発展しました。

そして、現代へ

第二次世界大戦では空襲で多くの工場などが被害を受けましたが、昭和22年に貿易が再開されると、陶磁器の高い需要に対応して急速に復興します。製品の多くは北米を中心に輸出され、輸出が生産額の大半を占めるようになりました。その後、次第に国内向けが増え、昭和60年のプラザ合意により急激な円高が進むと、輸出は急速に減少。萬古焼は国内向け製品へと大きくシフトしました。

その間、昭和34年にはペタライトが配合された耐熱陶土が開発され、“割れにくい土鍋”は全国に広がりました。また、昭和54年には四日市萬古焼が国の伝統的工芸品に指定されました。





伝統と変化

陶山製陶所 5代目 益田英宏さん

初代はろくろ師で、山中忠左衛門の元で生地を作っていました。そこから160年近く受け継いできて、現在は急須専門のメーカーとして、年間5万個ほど急須を生産しています。

変わった形のものを作るときはガバ鑄込み※1という成形方法も使いますが、主にはろくろに近い動力成形※2で急須を作ります。動力成形は技術的に難しく、商品になる完成度で量産できるようになるまでには5~10年かかります。釉薬をかけないものはごまかしがきかないので、表面をつるつるにする「磨き」がこだわります。

萬古焼の魅力は“多様性”ですね。伝統にしばられず、変化に柔軟だと思います。

最近は急須でお茶を入れる人が減っていますが、ペットボトルのお茶とは別物なので、急須で入れるお茶のおいしさを知ってほしいです。紫泥の急須は誇りを持って作っていますが、現代のスタイルに合うような、紫泥以外のものも作っていきたくて考えています。

※1 石膏型に液状の土を流し入れ、必要な厚みの分の土が乾いたら、余分な土を捨てる成形方法
 ※2 石膏型に土を入れてコテを当て、回転させながら成形する方法

1856年に創業し、現在はごはん鍋を主に製造しています。大黒ごはん鍋は、炊飯器で炊くごはんとは違う、まるで割烹で出されるようなごはんを日常の食卓で楽しめるようにと、“おいしさ”にこだわりました。火加減いらずで、加熱時間たった9分でごはんが炊けます。また、持ち手に職人の指の跡を残し、温かみを出す工夫もしています。

私は大学進学や就職で関西や東京に出ましたが、離れてみて初めて萬古焼の良さに気付きました。この辺りにいると当たり前になっていますが、全国的に見れば土鍋などを工業的に作っている産地はほとんどありません。価値あるものづくりをしていると思います。

四日市に根付く萬古焼の魅力をお伝えしていくのも、自社の使命だと感じています。次世代を担う若者が感激するもの作っていきたくて、そして地元で若者が入りたくて思える会社にしていきたくて考えています。



離れて見えた魅力

株式会社華月 営業企画 竹内幹子さん

見る・買う・体験する 窯元・問屋めぐり

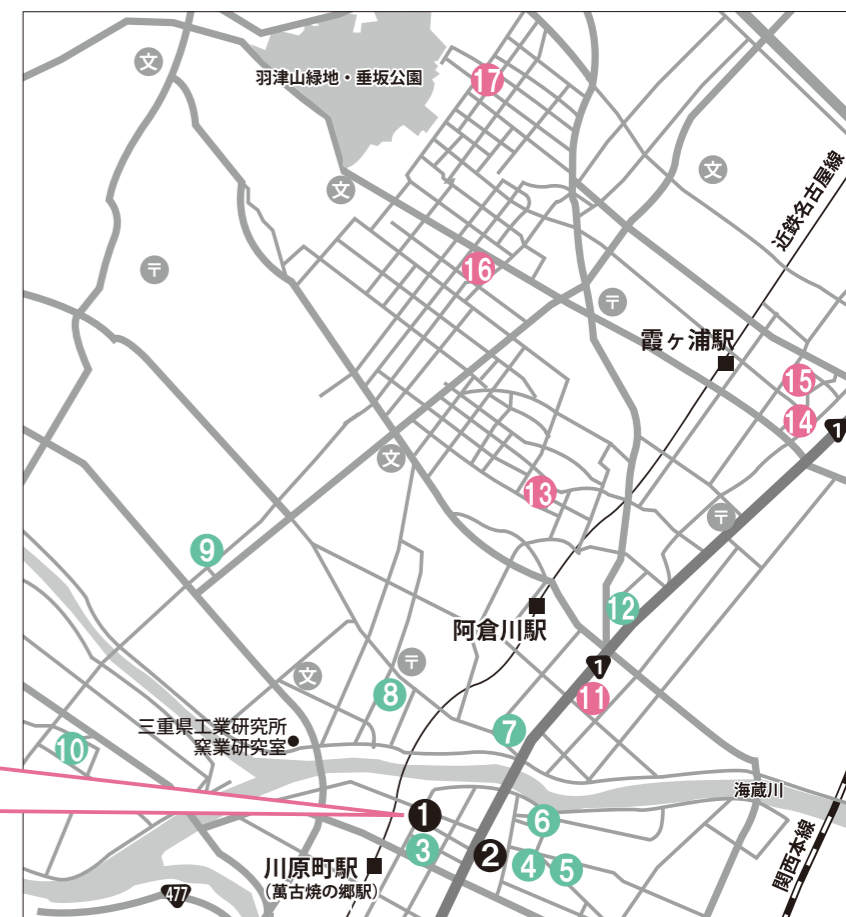
①ばんこの里会館

四日市萬古焼の魅力を発信する拠点施設です。

- ♥ 作陶や絵付けを体験できる「陶芸工房」(1階)
- ♥ 企画展が随時開催される「展示室」(1階)
- ♥ 品揃えと価格が自慢の「うつわ亭」(2階)



●…窯元 ●…問屋 ●…その他
 ※訪問する際は事前連絡をお願いします
 (ただし、①の販売・見学と②は連絡不要)



[[ばんこ焼の窯元・問屋めぐり](萬古陶磁器振興協同組合連合会作成)より抜粋]

No.	名称	営業時間/休業日	所在地	電話番号	販売	見学	体験
①	ばんこの里会館	9:00~17:00(ショップは10:00から) 月曜日、夏期、年末年始	陶栄町4番8号	330-2020	○	○	○
②	BANKO archive design museum	11:00~18:00/火・水曜日	京町2番13号	324-7956	○	○	
③	(株)各治	9:00~17:00 土(変則)・日曜日、祝日、GW、夏期、年末年始	陶栄町2番5号	331-4721	○	○	
④	瑞穂商店	9:00~17:00/不定休	京町15番15号	331-7530	○	○	○(お茶入れ体験)
⑤	(株)西尾陶苑	9:00~17:30 土・日曜日、祝日、GW、夏期、年末年始	京町15番25号	331-4913	○		○
⑥	(有)柴田商店	9:00~16:30 日曜日、祝日、お盆、年末年始	浜一色町4番7号	331-8212	○		
⑦	(株)三陶	8:45~17:30 土・日曜日、祝日、GW、夏期、年末年始	三ツ谷町5番10号	331-1266	○	○	
⑧	(株)森三	9:00~17:00 第2・4土曜日、日曜日、祝日、夏期、年末年始	万古町2番22号	331-1191	○		○(盆栽体験)
⑨	(株)ナカシマ	9:00~17:30 土・日曜日、祝日、夏期、年末年始	西阿倉川309	331-8101	○	○	
⑩	(株)スズ木	9:00~16:00 土・日曜日、祝日、GW、夏期、年末年始	野田一丁目2番12号	331-8636	○	○	
⑪	銀峯陶器(株)	8:00~17:00 土・日曜日、GW、夏期、年末年始	三ツ谷町13番25号	331-2345	○	○	工場不可
⑫	(株)要陶	8:30~17:30 土・日曜日、祝日、GW、夏期、年末年始	城山町7番45号	331-3181	○		
⑬	(株)華月	9:00~17:00 土・日曜日(不定期)、GW、夏期、年末年始	羽津山町20番9号	331-6037	○	○	○
⑭	(有)藤総製陶所	10:00~17:00 土・日曜日、祝日、GW、夏期、年末年始	八田一丁目7番22号	331-4492	○		
⑮	(株)南景製陶園	10:00~16:00/土(変則)・日曜日、祝日、GW、夏期、年末年始(臨時休業あり)	八田一丁目9番14号	331-5715	○	○	
⑯	陶山製陶所	8:00~17:00 土・日曜日、祝日、GW、夏期、年末年始	別名一丁目15番9号	331-5318	○	○	
⑰	酔月陶苑	9:00~17:00 年末年始(予約があれば対応可)	南いかるが町19番4号	332-8218	○	○	○(手口ロ、たたら、型萬古、盛絵)

●この記事についてのお問い合わせ・ご意見は

商工課 ☎354-8178 FAX354-8307